

①各地区ごと、二週間に一回の割合で回収します。

②回収日は各家庭に配布した「資源ゴミ分別回収カレンダー」で確かめてください。毎月15日号の広報にも翌月の地区別回収日が載っています。

## 分別の仕方

①空き缶：中身を出して軽く水洗いしてくだい。

②ワンウェイびん：栄養ドリンク、ウイスキー、ワイン、調味料、化粧品などのびん類

## ガラスびん工場を見学して

小田 勝さん（本町）

最初に訪れた一色不燃物最終処理場では、色別に分けられたびん、そして不純物（キャップ等）を混入しないことを学びました。また磁石を利用した空き缶の仕分けには感心させられました。

次に訪れた丸硝庵では、容器の経費がペットボトル75円、缶が35円、びんが5円かかるという事がわかりました。さらにアルミ缶1本作るには、40ワットの電球を10時間36分間つけっぱなしにするのと同じ電気料が必要だということを知り、驚きました。やはり、容器はガラスびんが一番廉価で自然に優しいことを知りました。

私たち大人だけでなく小中学生にも見学させて、リサイクルの重要さを教えたいと思います。

は、キャップを取って水洗いし、色別に分別して出してください。

③リターナブルびん：生きびんともいいます。ビール、酒、ジュースなど何回も再利用できるびん類は、なるべく購入店へ返してください。

④金属製品：やかん、フライパン、なべなど家庭生活で使用する金属製品。

⑤古紙・古着類：新聞、雑誌、ダンボール、牛乳やジュースのパック、古着など。

※古紙、古着類は、地域や小中学校が行う資源回収にまず出してください。

## 無情な扱いはしません

小笠原波良子さん（港町）

汚れたびんのキャップや不用物を取り除き、透明・不透明に分類し洗浄所へ渡す。手際良く作業する皆さんは、大変な労働だと思った。

この仕事を見て、捨てる前にキャップをはずし、水洗いできる物は軽くすすぐことで何万分之一なりと手伝えるかなと感じた。また、ガラスびん工場のベルトコンベアーに乗った完成したビンは息を吹き返した生き物のようで工場内の熱さや騒音も忘れるほどだった。見学会に参加しなかったなら、この偉大なリサイクル工程は知る由もなかった。この近代化された工程の素晴らしさとこの仕事にたずさわる皆様を拝見して、どんな物も無情な扱いはするべきではないと感じた。

（文章はスペースの都合上、短くさせていただきました）

④このカレットに、けい砂、ソーダ灰、石灰石を加え、千五百度の溶解炉でガラスが作られます。



⑤溶解炉から出たドロドロのガラスはファイダーで製びん機に送られます。一分間に約二百五十本のびんができます。

⑥成形されたびんは一時間かけてゆっくり冷やされます。

⑦自動検査機で割れ、形、大きさ、汚れがチェックされ、さらに熟練した検査員が一本一本、眼で検査します。ここで5%ぐらいが不合格になります。

⑧その後、包装されて出荷されます。

